

古来より、日本人は秋を四季の中において最も情感あふれる季節として好んできました。特に夕暮れ時を好み、清少納言は「枕草子」の冒頭で「秋は夕暮れ」といい、「新古今和歌集」でも「三夕の歌」と呼ばれる、そこはかとなくただよわびしさをうたった秀歌があります。そんな季節の中で第12回たまがわフェスティバル体育の部と文化の部が開催されました。体育の部はあいにくの雨天でしたので体育館においての開催となりましたが文化の部はまさに秋晴れの下、開催できました。

以下にその時の様子の一端を紹介します。

<第12回たまがわフェスティバル>

10月28日(土)にたまがわフェスティバル体育の部、11月3日(金)に文化の部を開催しました。体育の部では各学年の圧巻の集団演技が見られました。文化の部では分野ごとの秀逸な学習成果が見られました。どちらも保護者や地域の方々に「さすがはたまがわ生」と思っていただけに見事なものでした。この伝統を次のたまがわ生にも引き継ぐべく、今後も指導していきます。

たまがわフェスティバル(体育の部)

なんといっても館内を感動させたのは3年生の糸乱れめ集団演技です。エレガントでしかも、きりっと引き締まったダンス。懸命さや勇壮さが存分に伝わってくる組体操。3年間苦楽をともにした生徒の心がまさに一つとなり、見る者の心を打つ素晴らしい演技でした。保護者の中には涙を流し、感動の面持ちで見つめている方もおられました。1年生は足をはちまきで結びつけて4人で走る「結足の絆」、2年生は大縄跳びを使った「みんなでジャンプ」。いずれも心を合わせなければならない競技です。この土台がやがて3年生で花を開き、みんなを感動させる演技につながっていきます。



たまがわフェスティバル(文化の部)

こちらは職業学科各分野・各教科の発表です。「赤らめた小さな君の手を取りて愛しき言葉我が手の中に」3年生の作品です。流通サービス科は絶品のラーメンを作りました。食品サービス分野はいちごのまるごと入ったジャム。産業基礎分野は跳び箱、和ダンスなどの木工品。福祉・園芸科はたこ焼きが入ったせんべい、大根抜き体験、ハンドケアなどの実習を伴う活動をしています。どのコーナーも長蛇の列ができる大盛況でした。販売品もすべて完売しました。

午前中に行った体育館内発表では11月12日(日)に支援学校としては初めて近畿高等学校総合文化祭に出演するダンス部や1・2年生の合唱、3年生の迫力満点の和太鼓の演奏などがありました。

いずれも日頃の授業の成果がうかがえる魅力に満ち溢れた活動でした。来年もお楽しみに。

